

ARIBからの
お知らせ

第133回技術委員会(放送分野)が開催される

第133回技術委員会が開催されましたので、その概要をお知らせいたします。

1 日時 平成19年5月23日(水) 午後2時から3時40分まで

2 場所 当会第3会議室

3 議事概要

ア 事務局から第2回日伯デジタルテレビ共同作業部会Subgroup A (技術協力・標準化) 会合の結果について報告がありました。

イ 事務局からペルーにおけるアンデス共同体セミナー・デモの実施及びエクアドル、コロンビア、ベネズエラでのセミナー・意見交換の実施について報告がありました。

ウ SMPTE日本会合実行委員会からSMPTE日本会合実行委員会の活動について報告がありました。

エ 事務局から2007年ARIB/ATSC定期会合について報告がありました。

オ 事務局からアナログ周波数変更対策業務について報告がありました。

電気通信・電波
行政の動き

ITU-R SG8 WP8F会合の京都開催
第4世代移動通信システムの国際標準化
(5月17日付け総務省報道発表から)

平成19年5月23日(水)から5月31日(木)まで、京都市においてITU-R SG8 WP8F第22回会合が開催されます。

本会合は、第3世代携帯電話(IMT-2000)の高度化及びその後継システムである第4世代移動通信システム(IMT-Advanced)の国際標準に関する検討を行う会合です。

また、総務省及びITUは、5月22日(火)に「IMT-Advancedに関するワークショップ」を開催します。

1 WP8F会合

(1) 会合の概要

WP8F (Working Party 8F: 第8F作業部会) は、ITU-R (国際電気通信連合無線通信部門) のSG8 (Study Group 8: 第8研究委員会) の下に設置されている専門家会合としてIMT-2000の高度化及びIMT-Advanced*の国際標準に関する検討を行っており、ITU-Rの専門家会合の中で最も活発に活動している会合の1つです。

総務省は、次世代移動通信システムの国際標準化活動に貢献し、この分野における我が国の国際的な地位の一層の向上のため、ITU-R SG8 WP8F 第22回会合を日本に招致しました。日本での開催は、平成13年10月の東京会合以来約6年ぶりとなります。

* IMT-Advanced: 「IMT-2000の後継システム」である第4世代移動通信システムのITU-Rにおける名称案

(2) 開催場所及び日程等

- ア. 会場 国立京都国際会館 (京都市左京区岩倉大鷲町⁴²²番地)
- イ. 日程 平成19年5月23日 (水) から5月31日 (木) まで
- ウ. 出席者 各国電気通信主管庁、標準化機関、電気通信事業者、メーカー等から300名程度を想定

(3) 今回のWP8F会合の主な議題

- ア. IMT-2000の高度化及びIMT-Advancedで提供されるサービスに関する検討
- イ. 本年10月の世界無線通信会議 (WRC-07) におけるIMT-2000の高度化及びIMT-Advancedの新しい候補周波数の審議のための他の無線システムとの周波数共用の検討
- ウ. 今後のIMT-Advancedの無線インタフェース技術の国際標準化に向けた各国からの技術方式の提案募集に関する検討

(4) 会合に対する総務省の取組

総務省は、今後のユビキタスネットワーク社会を支えるグローバルな移動通信システムであるIMT-Advancedの早期実現のため、IMT-Advancedで提供されるサービスに関する勧告案の作成及び他の無線システムとの周波数共用に関する報告案の作成に積極的に貢献します。また、IMT-Advancedの無線インタフェース技術の提案募集を実施するための審議に参加し、来年以降に予定されているIMT-Advancedの国際標準化活動が円滑に行われるよう積極的に貢献します。

2 IMT-Advancedに関するワークショップ

(1) 会合の概要

WP8F会合の前日の5月22日 (火) に、今後のIMT-Advancedの国際標準化活動に資するため、各国の移動通信事業者や標準化機関のIMT-Advancedに関する取組状況の紹介及びIMT-Advancedに関する

技術、標準化に関する専門家による意見交換を行うための「IMT-Advancedに関するワークショップ」(Workshop on IMT-Advanced)をITUと共催します。

ア. 会場 国立京都国際会館(京都市左京区岩倉大鷲町422番地)
Room A

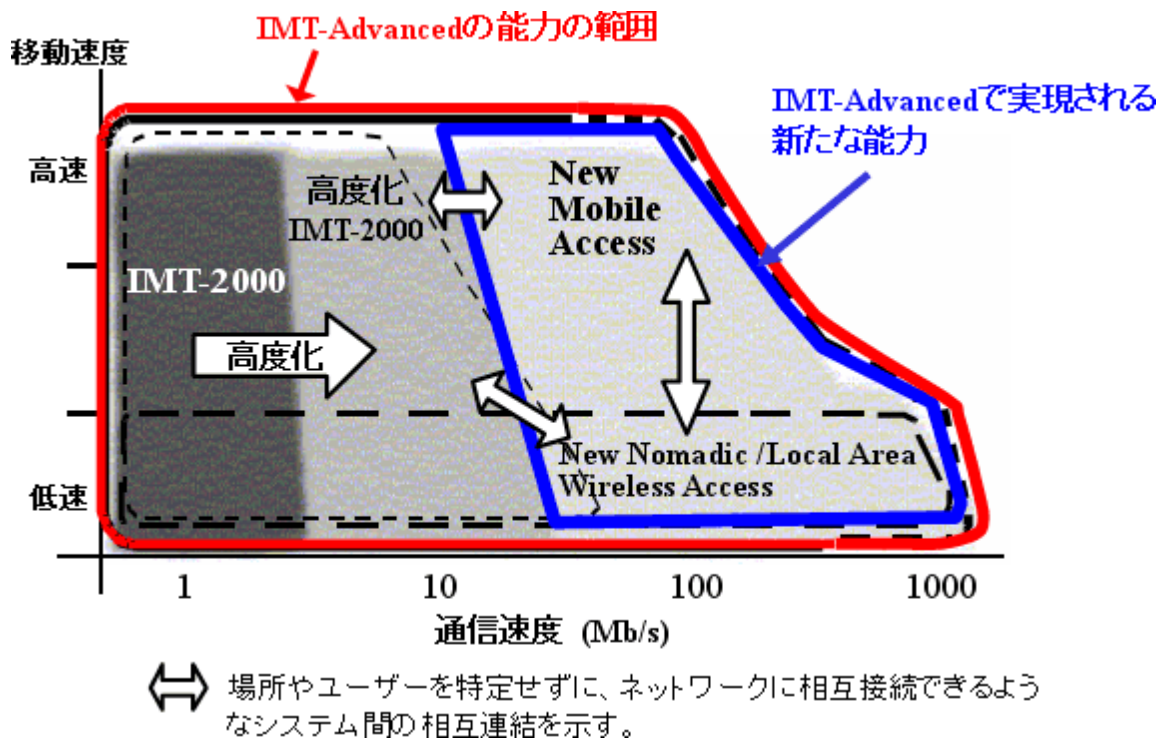
イ. 日程 平成19年5月22日(火) 午前9時より

ウ. 出席者 各国電気通信主管庁、標準化機関、電気通信事業者、メーカー等から300名程度を想定

(参考)

第4世代移動通信システム(IMT-Advanced)

第4世代移動通信システムとは、2010年頃の標準化を目指してITU-R SG8 WP8Fにおいて検討が進められている第3世代携帯電話(IMT-2000)の後継の移動通信システムです。高速移動時で100Mbps、静止時や低速移動時で1Gbpsの伝送速度の実現を目標としています。



本件の詳細は総務省報道資料

<http://www.soumu.go.jp/s-news/2007/070517_3.html>を参照願います。

「VHF/UHF帯における電波有効利用方策に関する考え方(案)」に対する
意見募集

(電波有効利用方策委員会案に対する意見募集)

(5月17日付け総務省報道発表から)

情報通信審議会情報通信技術分科会電波有効利用方策委員会(主査:土居 範久 中央大学理工学部教授)は、平成18年3月より電波の有効利用のための技術的条件のうちVHF/UHF帯における電波の有効利用のための技術的条件について検討を

行って参りました。

今般、委員会報告のとりまとめに際し、その主要な部分である一部答申（案）作成に当たっての考え方を「VHF/UHF帯における電波有効利用方策に関する考え方（案）（詳細はPDFファイル<http://www.soumu.go.jp/s-news/2007/pdf/070517_2_1.pdf>をご覧ください。）として取りまとめました。

つきましては、本考え方案に対し、平成19年6月11日（月）までの間、広く国民の皆様から、以下の要領で意見を募集いたします。

1 意見募集の対象

VHF/UHF帯における電波有効利用方策に関する考え方（案）（PDF）

2 概要

我が国における無線局数は、平成18年1月末時点で1億局を超えており、携帯電話に加え、無線LAN、電子タグなど様々な形態の電波システムについて、普及や利用の拡大が進んでいます。

これらの電波の需要増に対応するため、総務省においては、「電波政策ビジョン」（平成15年7月情報通信審議会答申）に基づき、抜本的な周波数割当て及び電波利用料制度の見直し、周波数の再配分・割当て制度の整備、研究開発の推進等、有限希少な資源である電波を最大限有効利用するための施策を展開しています。

このうち、周波数割当ての見直しについては、今後、平成23年の地上テレビジョン放送のデジタル化をはじめとして、移動、放送等の業務をまたがる大規模な周波数再編が想定されており、我が国の情報通信分野における国際競争力強化を一層推進するためにも、周波数のより一層の有効利用による効率的な電波の再配分を実施することが必要です。このため、情報通信審議会情報通信技術分科会の下に電波有効利用方策委員会を設置し、今後導入が想定される電波システムの技術的特性等を総合的に検討することにより、電波の有効利用方策につながる技術的条件について検討を行っているものです。

今回は、地上テレビジョン放送のデジタル化により空き周波数となるVHF/UHF帯における電波の有効利用のための技術的条件について、平成18年3月より同委員会で検討を行ってきたものであり、今般、別添のとおり考え方案を取りまとめました。本件意見募集は、この考え方案について国民の皆様から広く意見を募集するものです。

3 意見募集要領

意見募集等の詳細については、

<http://www.soumu.go.jp/s-news/2007/070517_2.html>をご覧ください。

4 募集期限

平成19年6月11日（月）午後5時

5 今後の予定

皆様からお寄せいただいた意見を踏まえ、6月中を目途に報告書を取りまとめる予定です。



十日町カントリークラブにて

ARIB旅行会が5月11（金）～12日（土）の2日間に開催致されました。

ゴルフ組は、12日7時40分に「十日町カントリークラブ」へ向けてホテルを出発し、写真の様な快晴のもと総勢22名で「第39回ゴルフコンペ」を開催致しました。優勝は田部さん（電磁G）、準優勝は稲本理事、準々優勝は若尾専務でした。

次回は記念すべき第40回のゴルフコンペとなり、田部幹事及び小職も引き続き幹事を務めさせていただきますので、奮ってのご参加をお待ちしております。

（鈴木 康時）